

第 6 次草津市総合計画策定

中堅職員への意見照会



目次

■CONTENTS■

1	はじめに	1
2	第1次～第5次総合計画の流れ	5
3	中堅職員の意見	9
4	将来ビジョンのキーワード	27
5	キーワードからの方向性	33



1

はじめに

はじめに

【中堅職員意見聴取実施概要】

- 1 目的** 第6次草津市総合計画の計画期間中に責任ある立場となる中堅職員の意見を計画策定に活かすことを目的としています。
- 2 対象者** 平成31年4月1日現在において30歳から45歳までの正規職員
- 3 実施方法** 毎回、メールで意見照会を行うなどの方法で行います。
今回の意見照会では、次期基本構想の将来像などについて意見を求めました。なお、意見照会にあたっては、現所属の立場からの意見を求めるわけではなく、市職員の立場からの意見を求めたものとなっています。



2

第1次～第5次
総合計画の流れ

第1次～第5次 総合計画の流れ

これまでの総合（開発）計画のストーリー

第1次

第2次

第1次草津市総合開発計画では、「調和のとれた10万都市づくり」、第2次草津市総合開発計画では「活力ある調和のとれた市民都市をめざして」として、京阪神大都市圏のベッドタウンとして人口が増加する中で「調和のとれた」まちづくりを進め、現在の都市基盤の礎を築きました。

調和

活力

市民
都市

第3次

第3次草津市総合計画では、びわ湖の感動都市「活力と魅力あふれる生活文化創造のまち」として、草津駅周辺や南草津駅周辺を中心とする都市核の形成や広域圏拠点核の位置づけなど、ハード基盤整備を中心として自主性の高い都市構造づくりを行ってきました。

活力

魅力

生活
文化創造

第4次

第4次草津市総合計画では、「パートナーシップで築く人と環境にやさしい淡海に輝く出会いの都市」として、ハード面からの都市機能の集積を一層充実させるとともに、これらをより活かすため、環境や人権、パートナーシップの仕組みづくりなどソフト面の強化を目指した取組を行ってきました。

パートナ
ー
シップ

人

環境

出会いの
都市

第5次

第5次草津市総合計画では、“活力と魅力ある草津”を創出するため、「出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津」を将来のまちの姿として掲げ、市民の皆様が生き生きと輝き、安心して暮らすことのできるまちづくりを展開し、草津の人とまちに“ふるさと草津の心（シビック・プライド）”が生まれ出されるよう取組を進めています。

出会い

ふるさと

元気

うるおい

第6次草津市総合計画

3

中堅職員の意見

中堅職員に「第6次草津市総合計画」の策定のために、未来の草津市について「どのようなまちにしたいか」と「将来ビジョン（キャッチフレーズ）」を考えてもらいました。

中堅職員の意見

提案 1

どのようなまちにしたいか

「私たちが子どもたちの未来をつくり、子どもたちは草津の未来をつくる」
「私たちが助け合いの精神をつくり、子どもたちは当たり前とその心をつなぐ」

子どもたちが大きくなって、 草津に戻りたい！と思えるまち

「私が育ったまち・草津で我が子を育てたい」そう思えるような環境整備(まちづくり・心のこもった教育内容づくり・誰もがその人らしく生きられる制度づくり)をする。

今あるものを美しく・まちの形や香り、 音がいつまでも続くまち

新しいものを生み出すばかりにとらわれず、今あるものを見直し、改良していくことも大切。人の思い出や懐かしい気持ちはその繰り返しで続いていく。

人がその人らしく生きることが できるまち

障害がある人も、高齢の人も、病気の人も、一人親家庭も、心がしんどい人も…どんな状況、状態であっても、その人がその人らしく生きられるような環境と制度を今以上に整える。

できる限りたくさんのスポーツを 受入れ、応援するまち

誰もが選手として、応援者として参加できる機会をつくることで、相手の立場に立って物事を考えられる、助け合いの心を生み出す。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

比べた後でわかる、草津のよさ、
世代を超えて愛される草津「ずっと草津で…」

中堅職員の意見

提案2

どのようなまちにしたいか

自然を体で感じることができる時、心から安心できる時、人のやさしさに触れた時等、自然に「ほっ」と一息でるような瞬間は、心も体も落ち着いて安心している時だと思います。発展を遂げてきた草津市のこれからは、訪れる人々もそこに住む人々も、なぜか自然と「ほっ」とできるような町であってほしい。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

豊かな自然と活気にあふれ、
「ほっ」とするまち 草津

提案3

どのようなまちにしたいか

現在は人口が増え続けていく中であっても、今後は段々と人口が減っていく局面を迎え、地域の結びつきが困難になると考えられます。その中であって今後も草津に住み続けて良かったと思われるためには誰もがやさしく、あたたかい気持ちになることが必要ではないでしょうか。小さな子どもからお年寄りの方の日常が穏やかな気持ちになれるよう、皆が寄り添っていける、生きていけるそんな街を目指していきたい。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

皆が寄り添いあい、
やさしい気持ちになれる街 草津

中堅職員の意見

提案 4

どのようなまちにしたいか

長い歴史が刻み込まれたまちからは風格が感じられ、人とまちは調和と賑わいに満ち溢れ、誰もが草津に生涯住みたくなるような、いつでも草津に戻ってきたくなるような、誇りがあり魅力溢れるまちを皆で創っていききたい。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

**私たちが創り出す 調和と風格に満ち
元気がほとぼしる生涯自慢都市くさつ**

提案 5

どのようなまちにしたいか

これから10年、20年先の草津市について、今後、人口のピーク（草津市が最も活性化する時代）を迎えるにあたって望まれる都市像について考えました。人口や交通量、物流量が増えても市民が心にゆとりをもって、定住者や一時的に住まわれる方（学生や単身赴任者）、通勤されている方や外国籍の方など様々な暮らし方、考え方の人々が互いを認め（違いを認め）、「草津市は（住み）よいところだ」と共感・共有できるような街になればと思い下記のキャッチフレーズを考えました。※令和「人々が美しく心寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」を参考にしました。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

**違いを認め 美しい未来に心寄せ合う
わたしたちのまち草津**

提案 6

どのようなまちにしたいか

様々な年代、立場の人達がここで暮らしたいと思えるまち

私は、草津よりずっと田舎で育ちました。そのため、私が草津に抱いている印象は、「便利なまち」という印象です。私からすると徒歩や自転車で駅や大型スーパーに行け、コンビニが近くにいくつもある草津はとても生活しやすい場所です。

その一方で、仕事をする中で感じる草津の印象は「都会独特の一步引いた近所付き合い」です。それは、元気な時、困っていない時は、とても都合の良い関係ですが、困った時、助けてほしい時には、頼りにくい関係性のようにも感じます。実際に子育てに困っても相談できる相手がいない、ちょっと手伝ってもらえれば介護を受けなくても生活できるのにそれができないといった人にたくさん出会いました。干渉されずに自由に生活できること、助けてほしい時に気軽に助けてもらえること、この2つは、相反することで両立させることは、とても難しいことですが、それができるまちになることを望んでいます。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

**混ざり合って光る！
やさしさと魅力でつながるまち草津**

提案7

どのようなまちにしたいか

草津に関わるすべての人が、草津というまちに誇りと愛着をもち、出会いと交流により、その気風が草の根のように広がり、しっかりした地盤となって草津市を支え、育てていくような、力強く豊かなまちを目指します。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

人とうるおいが育てる豊かなまち くさつ

提案 8

どのようなまちにしたいか

本市は平成 31 年 3 月末時点で、平成 22 年度末とほぼ同程度の若年人口（20 歳未満）を維持しており、子育て世代から住みたいまち、住み続けたいまちとして選ばれていることが本市の活力の源になっていると考えます。

第 6 次計画期間についても教育環境や出産・子育てに関する支援を充実させることで、新しい世代が可能性を花開かせていくことができるまちにしていきたいと考えます。

貧困や高齢化など、市単独の力で抜本的に解決できない課題が今後 10 年でさらに顕在化していくことが予想されますが、まちづくり協議会をはじめ、第 5 次総計期間中に基礎が整えられた地域自治の仕組みに対して行政もこれまでに無い関わり方を考え、市民や地域と密に連携して課題解決に臨めるまちにしていきたいと考えます。

子どもが家族や保育園、学校で学び、育てられる一方で、子を持つ親も子育てを通して子どもや学校等から人として育ててもらっていることを感じますが、市も地域や市民サービスを提供しながら、市民の参加や意見に学び、育てていただいております。関係性が類似している部分があると思います。上記のような地域との関わり方を考えていくのにあたり、この点を 1 つの視点として重視してもよいのではないかと考えます。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

市民とともに学び育ち続ける、
人が持つ可能性が花開くまち

中堅職員の意見

提案 9

どのようなまちにしたいか

他市に通勤や通学している人も多いと思うので、「帰ってきたらホッとする」「落ち着く」「やっぱり草津がいいな」と思えるまちにしたい。

就学や就職、結婚・出産等様々な理由で草津に転入し、初めて草津で暮らす人が安心して過ごせるよう、住民が親切なまちにしたい。また、一度草津を離れた人も「また住みたい」「戻ってきたい」と思えるまちにしたい。

現在新しい住宅地やマンションが増えてきており、自然が減っているという声も聞く。そのため、昔からある自然や風景も残しながら、自然と共存できるまちを目指す。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

住みたい、帰りたくなるまち草津

提案 10

どのようなまちにしたいか

これまでの総合計画で築かれた、まちなか整備等のハード面での発展や、産学公民の連携のしくみ整備等のソフト面での発展を生かし、更なる地域ブランドの確立を目指します。これまでも重視されてきた、連携や計画的な都市基盤の整備を次世代に繋いで、継続的に発展させるという意図で、「つながる」という言葉をキャッチフレーズに選びました。具体例として、下記の項目を「つながる」をキーワードに、様々な要素が一体となった草津が、総計だけでなく、住みたいまちとしてすぐに名前があがるようなまちであってほしいとの思いで、理想のまちを考えました。

まちなかエリアのつながり

家族や友人と、休日に一日まちなかで楽しく、安心して過ごせるようなエリアがあるまち。現在もこの数年をみても急速に開発されて魅力は増していますが、景観も含めて、ハード面でさらに「点」から「面」につながると良いと思います。(公園だけでない子どもの遊び場、食事、休憩場所、魅力的な商業施設の集約。民間との連携。)地区の資産価値が上がり、さらなる活力へつながると良いと考えます。

学生－子育て世代－働く世代－シニア世代へつながる住環境の魅力の連鎖

教育環境が整っていること、治安が良く安心安全な環境で子育てできること、質の良い教育を受けられ、将来それを生かせるような魅力的な就業先が多数あること、公共交通機関で生活圏がつながっていたり、必要な施設が集約されていたりとシニア世代も安心して生活できること等、世代が変わっても絶え間なくそれぞれに魅力的な住環境があると良いと考えます。

地域のつながりがあるまち

敬遠されがちな地域のつながりも、まちに魅力や愛着があることにより、大切にしようという思いが生まれると思います。住宅エリアのブランド化(治安が良い、街並みが魅力的等)は若い世代や転入者の地域参加を促し、地域コミュニティのつながり強化に寄与するため、持続可能なまちづくりに欠かせないと考えます。

将来ビジョン (キャッチフレーズ)

もっともっと！ “つながる” 草津

提案 11

どのようなまちにしたいか

草津市ではこれまで人口増加の背景もあり、“出会い”をキーワードにした総合計画が続いてきました。しかし、今後は人口減少が見込まれており、人間関係の希薄化も予測されます。

そこで、第6次草津市総合計画では“出会い”から人と人との“つながり”に重点をおき、誰もが自分の住む地域に誇りと愛着をもつ、草津市ならではの結びつきの強い地域共生社会を目指します。

また、本市がもつ多様な個性と伝統文化を活用し、人々が集い触れ合う中で、人と人・心と心・思いと思いをつなげ、共助の精神を構築し、多くの人々を引きつけて離さない、にぎわいとうるおいのある魅力的なまちづくりを進めます。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

人と人・心と心がつながり合い
幸せ紡ぐふるさと草津

提案 12

どのようなまちにしたいか

人生 100 年時代において、各世代の市民が、それぞれのライフステージを、そしてその生涯をいきいきと自分らしく過ごすことができる舞台として草津を選択し、誰もが健やか・幸せ(健幸)を実感しながら暮らせる、そんな草津市を思い描き、実現していくことを目指したい。

そのためには、

- ①子育て・教育・高齢者福祉といった住民の日常生活に深く関連する施策の充実
- ②LGBT、男女共同参画、障がい、認知症などの特徴や多様性を理解し、マイノリティの垣根を解消し、だれもが社会参加できるコミュニティの形成

そして、厳しい財政運営下において「選択と集中」の判断をよりシビアに下しながら①②を後押しする施策を総合的に推進していく必要がある。

将来ビジョン (キャッチフレーズ)

あなたの健やか・幸せ実感都市くさつ

中堅職員の意見

提案 13

どのようなまちにしたいか

古き良き伝統・文化的な年輪の厚さ・あたたかさ・包容力も兼ね備えつつ、現代的な洗練性・衝動・ポップさ・エンターテインメント性もあり、将来へのキラキラ・ワクワクした期待感の持てるまち。

色んな人が、ここなら、自分の好きなことや楽しめることが、それぞれに見つけられそうに感じさせてくれるまち。
毎日の生活や週末がワクワクするまち。

みらいのこどもが、いまのまちづくりを誉めたり、感謝してくれるようなまちづくり。

日々 是
草津

まちをつなぎ、ひとをつなぎ、ふるさととみらいをつなぐまち。

知っている人は知っている草津市。
→ だいたいみんな知っている草津市。

京都の隣、琵琶湖のある滋賀県の草津市です。
→ 草津市です。で伝わるまちへ。

みんな が 草津。

京都や大阪へのアクセスのよさじゃなく、この地のよさが枕詞になるまちに。

ベッドタウン から
ホットタウンへ

まちと田舎のちょうど真ん中。
まちと田舎のハイブリッド。

ふつう。くさつ。・ゆったり、草津。・なんかいい！ くさつ。

つつい、
住みたくなるまち。

ふかく つなぐ + (ふらす)
くさつ
(←韻をふんでみました。)
うかぶ・かむ・すだつ・うたう・
ふふふ・むすぶ・うなる・つたう

水でもお茶でもコーヒーでもなく、品格・伝統・革新を兼ね備える、紅茶っぽいイメージ。演歌でもパンクでもなく、アカペラグループっぽいイメージ。オレンジでも白黒でもなく、水色とビリジアングリーンの間ぐらいの色。マンゴーでもバナナでもなく、白桃の感じ。飛行機でもスカイダイビングでもなく、気球。象じゃなくて、コアラでもなくて、シマウマ…?

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

- ▶まだ見ぬ草津へ。-未来に花さく 誇れるまちの たねづくり-
- ▶みんなが草津。-まちをつなぎ ひとをつなぎ ときをつなぐ-
- ▶つつい くさつ。-みらいのこどもの ふるさとづくり-
- ▶ふふふ。くさつ。

提案 14

どのようなまちにしたいか

国内での時代の潮流としましては、「SDGs(持続可能な開発目標)」、「人口減少」、「高齢化」、「Society5.0」、「IoT(Internet of Things)」、「防災」等々が挙げられます。

この中で、「人口減少」、「高齢化」は、国等の資料に基づく、同時に進行する見込みであります。これらに伴い、住民の減少と高齢化による地域コミュニティの衰退、様々な分野の労働者不足による産業や医療・福祉への影響、インフラの老朽化の進行、等々の課題が生じると思われれます。本市においても、「人口減少」、「高齢化」は進行し、様々な課題が生じることが想定できます。

これら課題に対し、市民、地域、企業、行政等が別々に取り組むのではなく、それぞれが「つながり」を強化し、協働による取り組むが必要だと思われれます。また、「IoT」で全ての人とモノが、「つながり」、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことで、先述した課題を克服できるかもしれません。

以上のことを踏まえ、10年、20年先の草津市を「どのようなまちにしたいか」、考えましたところ、第5次草津市総合計画(第3期基本計画)の中の「健幸都市づくり」を、さらに推進を図り、人と人、人のモノが「つながり」が生み出され、新たな価値が創出されることにより、草津の人とまちに「豊かさ」と「幸せ」が、以前より感じられるようなまちにしたいと思います。

将来ビジョン (キャッチフレーズ)

**「つながり」が生み出す ふるさと
「豊かさ」と「幸せ」のある まち 草津**

中堅職員の意見

提案 15

どのようなまちにしたいか

第5次草津市総合計画では、市民の皆様が生き生きと輝き、安心して暮らすことができるまちづくりが展開され、草津市が住みよさのよいまちと成長していきました。

第6次草津市総合計画では、本市が初めて人口減少を迎えるまちづくりの形成においても高い水準を持ち「挑戦」と「堅実」の「バランス」を持ったまちづくりの形成が必要となります。

そして、次世代へ Take Over できるような信頼や誇らしさをもてるまちの形成することを目指します。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

次世代へ Take Over ふるさと まち 草津

提案 16

どのようなまちにしたいか

地域のぬくもりのなか、子どもたちは健やかに育ち
びわ湖や自然の豊かな恵みを、遊んで、学んで、味わって
強く安心なまちの機能のもと、
一人ひとりのアイデア詰まった活気溢れる草津らしさで、
まちなかを賑わいと幸せでいっぱいになる。

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

人とひと、自然と、まちとつながり つくる
賑わいつづく 多様で暮らし豊かなまち草津

提案 17

どのようなまちにしたいか

草津市は、田舎の住民からは開かれた便利なまち、都会の住民からは自然もあって住みやすいまち、また、企業や事業者の目線では手頃で店舗や事務所を立地したいまちという、田舎と都会を併せたい感じの都市だと思います。

今後も、田舎と都会の「いいとこ取り」を続け、市内外の人・企業から人気のあるまちを目指すのが良いのではないかと思います。

●上記から思いつくキーワード

「住みたい」、「働きたい」、「自然と都会」、
「ハイブリッド(田舎と都会等)」、「大人気」、「出会い」。

●その他の思いつきワード

「超スマートなまち」(Society5.0の到来を見据えて)
「学びたい・学ばせたい」(教育が充実していることから)
「大満足のまち」

将来ビジョン (キャッチフレーズ)

- ▶自然と都会が隣り合う 大人気な出会いのまち
- ▶住みたい・学びたい・働きたい 全ての理想が草津(ここ)にある
- ▶人・文化・産業が出会う ハイブリッドなまち

提案 18

どのようなまちにしたいか

草津市民だけでなく、通勤・通学・生活などで本市にかかわるすべての人が「草津とかかわることで豊かになった」と実感できるような魅力を持つまち

地域文化振興を軸とし、歴史文化やまちの風景を財産と捉え、保存し、次世代へ引き継ぐまち

少子高齢化の進行や人口減少に備え、新しいモノ・コトの創出に力点を置きすぎず、「今あるもの」×「人財」でまちづくりを考えるまち

若者、子どもたちの柔軟な発想を大切にし、まちづくりに参画してもらおう仕組みを持つまち

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

文化に育てられ、文化を育てる、
かがやき続けるまち草津

提案 19

どのようなまちにしたいか

私は生まれてから今まで草津市で育ってきました。よそのまちは知りません。私の成長の段階とともに草津市の姿を思い出されますが、この草津市は爆発的な成長をしてきたと感じています。

ハード面については、公共施設は充実し、民間の商業施設も増え、便利でにぎわいのある街になりました。

ソフト面でいうと、やはり人口です。他府県からの転居者も増え、昔はああったよね、という話ができる人も少なくなってきました。逆に、成人して大都市へ出て行った人もたくさんいるのでしょう。

草津に住んでいてよいと思うところは、住まいの近くに自然があることです。散歩をすれば、田んぼの傍で季節を感じることもできますし、車や自転車で少し行けば、矢橋帰帆島やロクハ公園など大きな公園もあります。また、商業施設もたくさんあるので、生活に不便はありません。

ですので、これからの草津に望むことは、成長ではなく今あるものを最大限に生かして、最小の経費で最大の効果を生み出すようなまちづくりです。草津は多くの人にとって生活の拠点であり、安心して快適に毎日が過ごせることが一番大事なことであって、市としては過剰に市民サービスの充実を図るのではなく、生活者の視点に立って、真に何が求められるのか見極めて、税の負担が、市民の理解を得られる形できちんと還元されるようなまちづくりがされることを、一市民であり一職員として望むところで

将来ビジョン（キャッチフレーズ）

**持てる力を未来に向かって最大限に生かす
持続可能性の高いまちづくり**

4

将来ビジョンの
キーワード

将来ビジョンの キーワード

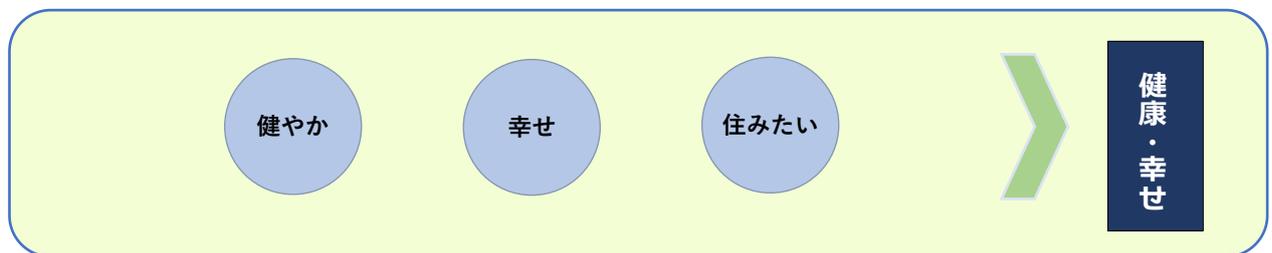
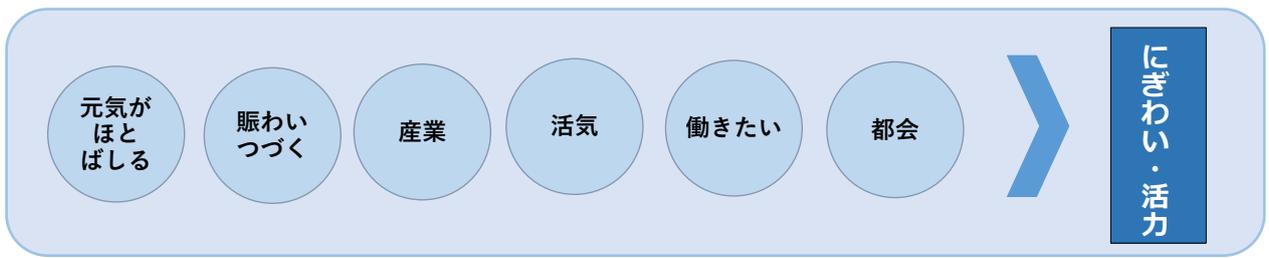
1	比べた後でわかる、草津のよさ、 世代を超えて愛される草津「ずっと草津で…」
2	豊かな自然と活気にあふれ、 「ほっ」とするまち 草津
3	皆が寄り添いあい、 やさしい気持ちになれる街 草津
4	私たちが創り出す 調和と風格に満ち 元気がほとばしる生涯自慢都市くさつ
5	違いを認め 美しい未来に心寄せ合う わたしのまち草津
6	混ざり合って光る！ やさしさと魅力でつながるまち草津
7	人とうるおいが育てる豊かなまち くさつ
8	市民とともに学び育ち続ける、 人が持つ可能性が花開くまち
9	住みたい、帰りたくなるまち草津
10	もっともっと！“つながる”草津
11	人と人・心と心がつながり合い 幸せ紡ぐふるさと草津
12	あなたの健やか・幸せ実感都市くさつ
13	●まだ見ぬ草津へ。 -未来に花さく 誇れるまちの たねづくり- ●みんなが草津。 -まちをつなぎ ひとをつなぎ ときをつなぐ- ●ついつい くさつ。 -みらいのこどもの ふるさとづくり- ●ふふふ。くさつ。
14	「つながり」が生み出す ふるさと 「豊かさ」と「幸せ」のある まち 草津
15	次世代へ Take Over ふるさと まち 草津
16	人とひと、自然と、まちとつながり つくる 賑わいつづく 多様で暮らし豊かなまち草津
17	●自然と都会が隣り合う 大人気な出会いのまち ●住みたい・学びたい・働きたい 全ての理想が草津(ここ)にある ●人・文化・産業が出会う ハイブリッドなまち
18	文化に育てられ、文化を育てる、 かがやき続けるまち草津
19	持てる力を未来に向かって最大限に生かす 持続可能性の高いまちづくり

将来ビジョンの キーワード

各課の中堅職員から出された将来ビジョンのキーワードを全て抽出し、分野ごとに分類すると以下のとおりとなりました。

キーワードの頻出度等により、思い描いた「意図」や「思い」を読み取っていくことから提案の方向性を検討します。





キーワードを抽出し、分類していくと、「人・つながり・やさしさ」、「地域の特性・誇れるところ」、「ふるさと意識」、「にぎわい・活力」、「次世代・子ども」、「健康・幸せ」「未来・文化」などほぼまちづくりの全体を網羅することがわかります。

その中でも、一番多く、重視されていると感じられるのは、「心寄せ合う」、「寄り添いあい」、「やさしい気持ち」、「やさしさと魅力」、「人と人・心と心がつながり合い」、「出会い」など、主に“人と人のつながり”を重視した内容が多くなっています。

計画策定にあたっては、提案者の思い描いた「意図」や「思い」を勘案して方向性をまとめていくことにします。

